

1. 木質バイオマス関連情報

■長野県御代田町、ふるさと納税(寄付)の返礼品に薪を配送するサービスを開始。伐採した雑木などをストーブや暖炉で利用してもらおうと、町内の造園業「(株)東信花木」と提携。一口5万円の寄付で500kg(1万5千円相当)の薪が贈られる。配送先は同町と長野県内近隣自治体の軽井沢町、佐久市、小諸市に限定。12月に開始し、これまでに12人から15口(75万円)の寄付の申し込みがあった。軽井沢で冬を過ごす別荘所有者が多いという【msnニュース:2020/01/11】

<https://www.msn.com/ja-jp/news/politics/%E3%81%B5%E3%82%8B%E3%81%95%E3%81%A8%E7%B4%8D%E7%A8%8E%EF%BC%95%E4%B8%87%E5%86%86%E3%81%A7%E8%96%AA%EF%BC%95%EF%BC%90%EF%BC%90%E3%82%AD%E3%83%AD-%EF%BC%91%EF%BC%92%E4%BA%BA%E3%81%8B%E3%82%89%E7%94%B3%E3%81%97%E8%BE%BC%E3%81%BF/ar-BBYQVQ2>

■明和工業(株)(石川)が、ケニアで有機ごみを肥料にするバイオマス炭化装置の事業化へ。同社はJICAの中小企業支援事業として2017年6月~2018年12月まで「JICA中小企業海外展開支援事業-案件化調査-」を同国メルー郡で実施。複数回の現地調査の結果、近年の気候変動下で深刻化・頻発する干ばつ等の対策が喫緊の課題であると分かり、同社の炭化装置を活用して現地で入手可能な農業残渣や林業残渣を用いた保水性の高い炭の生産方法を確認。農業資材として普及させることで、干ばつに強い農業の実現を目指している。同事業はJICA事業の第二フェーズにあたる「JICA中小企業・SDGsビジネス支援事業-普及・実証・ビジネス化事業-」に採択されており、2019年夏から2年6カ月の間実施される予定【日本経済新聞:2020/01/12、明和工業(株):2019/03/01】

<https://www.nikkei.com/article/DGXMZ054277670Q0A110C2FR000/?ct=ga>

<https://www.meiwa-ind.co.jp/2019/03/01/333/>

■木質チップを加工している(株)丹後グリーンバイオ(京都府京丹後市)、2016年7月の府公害審査会の騒音測定の際に

「市の指示で普段は使っていなかった防音シートを使い、音が出ないようにした」と証言。審査会は「ひどい騒音で不眠症になった」とする付近住民の訴えで現地調査をしたが、市は「偽装工作」をし、審査会の判断に影響した可能性も。市は「そうした事実はない」と否定【毎日新聞:2020/01/15】

<https://mainichi.jp/articles/20200115/dtl/k26/020/266000c>

■自然電力(株)(福岡)、同社初となる木質バイオマス発電事業「さつま町バイオマス発電所」(鹿児島県さつま町)を2020年5月に着工すると発表(1月17日)。燃料の木質チップは1月16日付でさつま町と立地協定を締結し、発電所に併設する「さつま町バイオマス燃料合同会社」から調達する。木質チップの大部分は地域の未利用材から製造し、約3万t/年を活用する計画。発電所の定格出力は1,990kW、年間発電量は一般家庭4500世帯の年間使用電力量に相当。発電した電力はFITを活用し九州電力へ売電する。今後、発電した電気を100%自然エネルギー由来の電気を取り扱う自社のサービス「自然電力のでんき」へ供給し、販売することを検討中。2021年夏の完工を目指す【環境ビジネスオンライン:2020/01/22、自然電力(株):2020/01/17】

<https://www.kankyo-business.jp/news/023990.php>

https://www.shizenenergy.net/2020/01/17/biomass_satsuma/

■銘建工業(株)(岡山)、1月29日に新しいバイオマス発電所の起工式。現在の発電施設は出力1,950kW。約160t/日の製材端材や間伐材などから出た木くずを燃やしており、予備設備として残す。新発電所では出力を約5,000kWまで引き上げる。新発電所は2021年7月頃の稼働を目指す。総工費は約28億円【日本経済新聞:2020/01/17】

<https://www.nikkei.com/article/DGKKZ054481460W0A110C2LCC000/?ct=ga>

■佐賀県佐賀市のバイオマス事業で、藻類培養用地の売却計画が遅れる見通し。市清掃工場北側の大和町に整備中の用地約21haを藻類培養拠点として企業に売却する計画が、当初予定し

ていた今年 3 月より最長で 1 年遅れる見通しを市側が市議会バイオマス産業都市調査特別委員会で報告。市のバイオマス産業推進課によると隣接地の地権者から同意が得られず、交渉を続けているという。「予定より 8 カ月から 1 年程度遅れると想定している」と説明し、2020 年度にずれ込む見通し【佐賀新聞：2020/01/17】

<https://www.saga-s.co.jp/articles/-/477316>

■住友商事グループのサミットエナジー（株）（東京）と（株）T ポイント・ジャパン（東京）が、T ポイントプログラム契約を締結。2020 年 1 月 20 日よりサミットエナジーの電気料金プランで月々の電気料金 100 円につき T ポイントが 1 ポイント貯まるサービスを開始する。サミットエナジーグループは、日本初の樹木由来のバイオマス燃料とする発電所を新潟県糸魚川市で開始し、その後も愛知県半田市、山形県酒田市に立ち上げた同様の発電所を運用。また 2019 年 4 月からは一般家庭向け電気料金プランの提供を開始している。T ポイント・ジャパンは持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けて、サステナブルな社会の実現に取り組む生活者意識の高まりを受け、全国 7000 万人の T 会員へサミットエナジーの電気料金プランを使うことを選択肢の一つとして提供する。ただ電気は全てが同グループのバイオマス発電所からの供給によるものではなく、また、個人の顧客は供給される電気を選択することはできないとのこと【PR TIMES：2020/01/20】

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000387.000000983.html>

■資源エネルギー庁、2020 年 1 月 22 日に第 54 回調達価格等算定委員会を開催。バイオマス発電における新規燃料の取扱い等について議論。現時点で食料競合への懸念が認められる燃料についてはその影響を検証することが可能となり、そのおそれがないことが確認されるまでの間は FIT 制度の対象としないこと、現時点で食料競合への懸念が確認されない燃料についてはライフサイクル GHG 排出量の論点をバイオマス持続可能性 WG で継続検討し、ライフサイクル GHG 排出量を含めた持続可能性基準を満たしたものは、FIT 制度の対象とする、等の案が提示された。また 2020 年度の入札については、2019 年度に引き続き一般木材等・バイオマス液体燃料一体として実施することとし、年間募集容量は両区分を合わせて 120MW。実施スケジュールは年度の下期に一回（事業計画受付締切：6/26、事業計画

審査締切：11/24、入札募集開始：12/8、入札募集締切：12/18、入札結果公表：12/25）とする案が提示された。詳細は下記サイトを参照【資源エネルギー庁：2020/01/22】

<https://www.meti.go.jp/shingikai/santeii/054.html>

■ダボス会議を主催する世界経済フォーラム（WEF）（スイス）が、地球温暖化の原因となる温室効果ガスの排出を 2050 年に実質ゼロにする目標を掲げた国について調査。それによると、目標を掲げたのは英国、スペイン、ドイツ、フランス等の西欧諸国の他、ニュージーランドやチリなどの 67 カ国で、世界全体の排出量の 15% だけ。中国、米国、日本など排出量の上位 5 カ国は含まれていない。しかもこのうち目標実現の裏付けとなる政策を打ち出しているのはスウェーデン、デンマーク、アイスランド、コスタリカ、ブータン、オランダ、スリナムの 7 カ国しかなく、排出量は世界全体の 2% に過ぎない。WEF は「取り組みは極めて不十分」として 2020 年 1 月 21 日からスイスで開催中のダボス会議参加国政府や企業に「50 年排出ゼロ」の目標を掲げるよう呼びかけた【msn ニュース：2020/01/22、信濃毎日新聞：2020/01/23】

<https://www.msn.com/ja->

[jp/news/techandscience/%E6%B8%A9%E5%AE%A4%E3%82%AC%E3%82%B9%E3%81%AE%E3%82%BC%E3%83%AD%E6%94%BF%E7%AD%96%E3%80%817%E3%82%AB%E5%9B%BD%E3%81%A0%E3%81%91-%E6%B8%A9%E6%9A%96%E5%8C%96%E6%8A%91%E5%88%B6%E3%80%81%E4%B8%BB%E8%A6%81%E5%9B%BD%E3%81%AE%E9%81%85%E3%82%8C%E9%AE%AE%E6%98%8E/ar-BBZd3uD](https://www.msn.com/ja-jp/news/techandscience/%E6%B8%A9%E5%AE%A4%E3%82%AC%E3%82%B9%E3%81%AE%E3%82%BC%E3%83%AD%E6%94%BF%E7%AD%96%E3%80%817%E3%82%AB%E5%9B%BD%E3%81%A0%E3%81%91-%E6%B8%A9%E6%9A%96%E5%8C%96%E6%8A%91%E5%88%B6%E3%80%81%E4%B8%BB%E8%A6%81%E5%9B%BD%E3%81%AE%E9%81%85%E3%82%8C%E9%AE%AE%E6%98%8E/ar-BBZd3uD)

■福島県大沼郡三島町、官民連携で木質バイオマス発電を核とした地域循環型スマートコミュニティの構築へ。1 月 31 日に町と地元林業事業者、研究機関が町地域循環共生圏推進協議会を設立。間伐材の需要を増やし、森林整備の促進、林業活性化を図るため事業内容の検討や実証に入る。協議会は町、地元の複数の林業事業者、みしま自然エネルギー研究会、会津自然エネルギー機構で構成し、国立環境研究所福島支部と県会津農林事務所がアドバイザーとなる。持続的な森林管理やエネルギーの利用の在り方、燃料材の製造などを幅広く協議する【福島民報：2020/01/24】

<https://www.minpo.jp/news/moredetail/2020012472036>

■全国農業協同組合連合会（JA 全農）が佐賀県佐賀市に建設したキュウリの大規模多収栽培の実証施設「ゆめファーム全農 SAGA」が昨年 12 月に稼働開始し、1 月 24 日に開所式を実施。佐賀市のバイオマス事業と連携し、近くの市清掃工場から出る廃熱蒸気や CO₂ を購入して栽培に生かす、JA 全農初の循環型農業実証施設。施設は約 1ha の鉄骨ハウスで、清掃工場から廃熱蒸気と CO₂ をパイプで引き込み、この熱で沸かした 50～80℃ の湯を循環させハウス内を暖める。さらに CO₂ を高濃度で放出してキュウリの光合成に利用。土耕栽培と養液栽培の二つの栽培方法を比較検討しながら、キュウリ約 1 万 7 千株を育てる【西日本新聞：2020/01/25】

<https://www.nishinippon.co.jp/item/n/578455/>

■山形県上市市金谷のバイオマス発電施設で昨年 2 月に起きた爆発事故で、設計・施工のテスナエネルギー（株）（東京）と、運営の山形バイオマスエネルギー（株）（山形県上市市）が 1 月 25 日夜、金谷公民館で 3 回目の住民説明会を開催。両社関係者のほか、第三者機関として技術指導をしている熱処理メーカー DOWA サーモテック（株）（愛知）担当者が出席し、工程案を提示。来月から新たなガスタンクの埋設工事に入り、7 月にはプラントを囲う遮蔽壁を設置し、9 月の試運転を経て 10 月中旬以降に稼働する方針。また、事故原因となった逆火を防止する装置を高機能化したことや小型化したタンクの構造など安全対策の詳細についてテスナ社の技術者が説明した【山形新聞：2020/01/26】

https://www.yamagata-np.jp/news/202001/26/kj_2020012600446.php

■テス・エンジニアリング（株）（大阪）、（株）巴商会（東京）および（株）エム・アイ・エス（福岡）との 3 社共同開発製品となる国産の竹チップ混焼バイオマス温水ボイラ「E-NE（イーネ）シリーズ」（無圧式温水発生機）を 2020 年 1 月下旬から販売開始。同製品は、独自の回転式ガス化旋回燃焼方式バーナを採用することで、燃焼時のクリンカ生成を抑制。またクリンカが発生しても自動排出機能によって速やかに除去することで、クリンカの炉内蓄積を防ぎ、竹チップの安定燃焼が可能に。その他、灰出しの全自動化によって省力化を実現し、燃料の形状が粉状のものや固形のものにも対応が可能で、竹チップ、木質チップ以外の未利用バイオマス燃料も利活用可能、といった点が特徴【テス・エンジニアリング（株）：2020/01/27】

<https://www.tess-eng.co.jp/news/20200127.html>

■日本フォレスト（株）（群馬）、大分県中津市に木質バイオマス燃料製造工場を建設予定。1 月 27 日に中津市役所で立地表明式を実施。同工場は 2021 年 6 月に商業運転を開始する福岡県京都郡苅田町の苅田バイオマスエナジー（株）に供給する木質チップ燃料を製造するために新設するもので、これまで利用されず山林に放置されていた曲がり材などの丸太（山林未利用材）を材料とする。新工場の名称は「日本フォレスト（株）中津工場」。敷地面積は約 8,000 m²、2020 年 11 月 1 日操業開始予定【大分県中津市、日本フォレスト（株）：2020/01/27】

<https://www.city-nakatsu.jp/infodoc/2020012700024/>

<http://www.morisho.co.jp/news/detail.php?id=202001280920495194>

■長野県塩尻市と（株）竹中工務店（大阪）、事業創出へ向け連携協定を締結（1 月 25 日）。「森林とまちをつなぎ、森林資源の循環と木材を活用した地域経済の循環を構築する」とする同社の登録商標「森林グランドサイクル」に関する取り組みを緊密に連携しながら、互いの資源を有効活用し協働により推進することで、持続可能な社会づくりや地域課題の解決に寄与・貢献することを目的としている。連携事項の中には「木質バイオマス発電やエネルギーの地産地消等に関すること」も含まれる。塩尻市は 2012 年より産学官連携で総合的な森林バイオマス資源活用事業となる「信州 F パワープロジェクト」に取り組んでおり、これと連携して、都市空間を木造・木質化していくための新しい木材・製品等供給体制の構築や小規模分散型バイオマス事業を展開する考え【（株）竹中工務店：2020/01/27】

<https://www.takenaka.co.jp/news/2020/01/02/index.html>

■（株）九電工（福岡）、山下ホールディングス（株）（宮崎）、（株）キューコーリース（福岡）と 3 社共同出資により、宮崎県児湯郡に拠点を置く木質バイオマス発電所を統括する、「（株）森林パワーホールディングス」（宮崎県児湯郡川南町）を 2019 年 12 月 10 日に共同設立。宮崎県児湯郡に拠点を置く木質バイオマス発電所は、既に稼働している（株）宮崎森林発電所（定格出力：5,750kW/h、発電量：39,000kWh/年）および（株）グリーンバイオマスファクトリー（定格出力：5,750kW/h、発電量：39,000kWh/年）と、2023 年 6 月稼働予定の（株）川南バイオマス発電所（定格出力：5,750kW/h、発電量：39,000kWh/年、の

予定)。これら三つのバイオマス発電所を統括すると、合計定格出力は 17,250kW/h、燃料使用量は 216,000t/年となる。宮崎県内の山林で利用されていない林地残材を主燃料として発電を行い、FIT 終了後も化石燃料に頼らない主力電源としてバイオマス発電の発展に貢献する構え【(株)九電工:2020/01/27】
https://www.kyudenko.co.jp/press/166cba12355ddc537cc656c3f21c4082_2.pdf

■(株)ブルーキャピタルマネジメント(東京)、が1月16日付でマレーシア・サバ州コタキナバルの PERIMA ENERGY RESOURCES SDN BHD. (以下、「PER」)と M&A 契約を結んだとプレスリリース。PERは西マレーシアにて500,000MT/年のPKS燃料を確保することが可能。2019年12月に BLOSSOM BIO ENERGY SDN BHD. (マレーシア)との間に年間600,000MT(※最大750,000MT)のPKS燃料の20年間長期供給契約を締結済みであるため、今回の契約により合計1,100,000MTのPKS燃料を確保することが可能となった。上記2社の総合運営管理は同社グループ会社の BCM SG. PRIVATE LIMITED. (シンガポール)が行う。同社で開発推進中の愛知県半田市、静岡県浜松市、北海道白老町のバイオマス発電事業に燃料を安定供給でき、電力の発電までをトータルに賄うことが可能に【OSR No.405 : 2020/01/29、(株)ブルーキャピタルマネジメント : 2020/01/16】
<http://www.bcm-co.jp/news.php?year=2020#no-56>

■イーレックス(株)(東京)と太平洋セメント(株)(東京)の共同出資により2016年8月に設立された大船渡発電(株)(岩手)が運営する「大船渡バイオマス発電所」が竣工式を実施(1月29日)。同発電所は太平洋セメント大船渡工場内に設置されており、主燃料はPKS。定格出力75MW、年間発電量は約520,000MWh(一般家庭約119,000世帯分の年間電力消費量相当)で、FITを活用。2020年1月1日より既に運転を開始している【イーレックス(株) : 2020/01/30】
<https://www.erex.co.jp/news/pressrelease/>

■フィリピンの財閥大手アヤラ・コーポレーション系のバイオマス発電会社バイオパワー・グループが、ネグロス島のバイオマス発電事業を拡大。新たに3カ所の用地に出力計20万kW分を建設する計画。新設するプラントの出力は各2万~3万kWを想定し、1プラント当たりの建設費は30億~40億ペソ(約

64億~85億円)となる見込み。バイオパワーは2019年、ネグロス島で160億ペソを投じ、サトウキビの絞りかすを利用する3つのバイオマス発電プラントを開設。合計出力は7万kW。既存のプラントはFITの適用をエネルギー省に申請中で、拡張はFIT適用が認められることが前提となる【NNA ASIA : 2020/01/31】
<https://www.nna.jp/news/show/2001930>

■国立研究開発法人森林総合研究所(茨城)、木材から微生物の力でメタンガスと工業原料を生成する実証研究についての論文を発表。福島県南相馬市にメタン発酵実証実験施設を設置して、世界で初めて木材を主原料としたメタン発酵を実証規模(500L)で安定的に運転する条件を明らかに。家畜糞尿からメタンガスを生成する場合の微生物組成は、木材成分にすると大きく変化することも分かった。発酵残渣は木材の主要ポリフェノール成分であるリグニンが多く含まれていたが、これらは変性が少なく芳香族物質に分解しやすいもので、微生物発酵により工業原料にもなり、発酵残渣の高付加価値利用にもつながる、としている【森林総合研究所 : 2020/01/30】
<http://www.ffpri.affrc.go.jp/research/saizensen/2020/20200131-03.html>

■バイオマス産業都市関係府省連絡会議が令和2年度予算案、令和元年度補正予算からの「関係府省庁によるバイオマスの利活用に関する支援策」をとりまとめ、公表【農水省:2020/1月】
<https://www.maff.go.jp/j/shokusan/biomass/attach/pdf/index-81.pdf>

■IEA Bioenergy、2019年10月22日にエストニアのタリンで開催されたワークショップの内容をまとめた“Developing business models for efficient use of biomass”を刊行。ワークショップは(1)バイオマスサプライチェーンの構築、(2)バイオベースのビジネスモデルの開発事例、(3)将来のバイオマスビジネスモデルの一環としてのCO₂回収、の三つのセッションで構成されており、バイオベースのビジネスモデルの構築に伴う障壁と、それら障壁の克服のために推奨されることについてパネルディスカッションが行われた。このワークショップの概要と結論についてまとめられた一冊【IEA Bioenergy Task40 : 2020/1月】
<https://www.ieabioenergy.com/wp->

content/uploads/2020/02/ExCo84-Developing-business-models-for-efficient-use-of-biomass-Summary-and-Conclusions.pdf

■(株)クワバラ・パンぷキン(埼玉)、バイオマス発電燃料の需要拡大を受け、3月下旬に埼玉県川口市でバイオマス発電の燃料となる木材チップの新工場「川口ウッドリサイクル」を稼働予定。市の廃棄物処理施設で焼却処理されていた廃木材や伐採樹木などを砕いて木材チップにし再利用する計画で、同市のバイオマス認定制度の第1号にも指定されている【日本経済新聞:2020/02/04、(株)クワバラ・パンぷキン:2020/02/05】
<https://www.nikkei.com/article/DGXMZ055222600U0A200C2L72000/?ct=ga>
<https://k-pumpkin.co.jp/information/2020/02/05/2007/>

■経産省・資源エネ庁、2月4日に第55回調達価格等算定委員会を開催。2020年度のFITの買取価格等について、委員会でこれまで議論してきた内容および令和2年度(2020年度)の調達価格及び調達期間についての委員長案の取りまとめと、再エネ海域利用法に基づく公募占用指針について議論。調達価格は2019年度末までに正式に決定する。例年は委員長案で決定している【資源エネ庁:2020/02/04、環境ビジネスオンライン:2020/02/05】
<https://www.meti.go.jp/shingikai/santei/055.html>
<https://www.kankyo-business.jp/news/024130.php>

■各地のパーム油発電所の建設・計画地の近隣住民や環境NPOが、東京都の参院議員会館で記者会見。騒音・悪臭について事業者に指導するよう政府に求めるとともに、パーム油発電がFITの対象とされていることが問題だと訴えた。会見したのは、三恵福知山バイオマス発電所(京都府福知山市)の悪臭・騒音対策を求める住民グループ「三恵福知山バイオマス発電所悪臭騒音対策推進会議」、京都府舞鶴市の建設計画に反対している「舞鶴西地区の環境を考える会」、宮城県角田市で(株)HISが建設中の発電所に反対する「生活協同組合あいコープみやぎ」。会見を主催した国際環境NGO FoE Japan(東京)は、住民生活に影響を与えると同時に、被害の救済措置も不十分な事業がFIT認定されていることは「制度的な大問題ではないか」と指摘。NPO法人バイオマス産業社会ネットワーク(千葉)は、パーム油発電の温室効果ガス大量排出が問題視されていること

について、FIT認定に排出量の基準を設ける必要性を訴えた。住民らは会見に先立ち、経産省と環境省に対し悪臭と騒音対策を求める要望書とともに、舞鶴市の計画に反対する署名約1万1,000人分を提出した【京都民報 web:2020/02/08】

<https://www.kyoto-minpo.net/archives/2020/02/08/post-24546.php>

■京都府舞鶴市喜多の府有地に建設が計画されているパーム油バイオマス発電所に対し、生活環境の悪化などを理由に地元住民らが反対。発電所の建設予定地近くには約200世帯が住む集落があり、発電所のディーゼルエンジン発電機の騒音や振動、パーム油燃焼時の臭気を含む排ガスの影響を心配している。喜多地区住民らでつくる「舞鶴西地区の環境を考える会」は12月下旬、建設中止を求めて、地区の9割以上を占める185世帯417人の署名を市に提出。1月には喜多地区の総会で建設反対を決議。市は「正確な情報が伝わっていない」として1月31日までに喜多地区をはじめ、建設予定地周辺5地区で説明会を開催し、住民に理解を求めていく考え。発電所は再生可能エネルギーの開発や投資を行うカナダの企業「Amp」の日本法人が出資する「舞鶴グリーンイニシアティブス合同会社(MGI)」が事業主体となり、日立造船(株)(大阪)に建設、運営、保守を委託。最大出力は66MW、年間では一般家庭12万世帯分に相当するもので、関西電力に売電する予定【京都新聞:2020/02/10、2019/09/10】

<https://www.kyoto-np.co.jp/articles/-/155925>

<https://www.kyoto-np.co.jp/articles/-/24179>

■三菱重工グループのTurboden S.p.A(イタリア、以下「ターボデン社」)、カナダ・サスカチュワン州メドウレイク区を対象に、木質バイオマスを燃料とする8,000kW級のバイナリー発電設備を納入する契約を締結。同地区は、同州北西部辺境のメドウ湖周辺に位置し、複数の先住部族が居住している。今回ターボデン社が納める発電設備はこれら諸部族協議会の事業として、カナダ政府ならびにサスカチュワン州当局も資金支援する。発電設備は製材所で発生する端材などのバイオマス残留物を燃料として、ターボデン社独自のORC(有機ランキンサイクル)を用いたバイナリー発電設備により発電。約5,000世帯に6,600kWのベースロード電力を供給する予定。25年にわたりCO₂の排出を約100万t以上抑制するほか、煤煙その他の有毒物質も減らす。また電力に加え、本設備から発生する熱もカナ

ダ最大の製材施設であるノーサスク製材所の乾燥室やビルに供給、天然ガス消費量を減らすことが可能に【三菱重工業(株)：2020/02/10】

<https://www.mhi.com/jp/news/story/200210.html>

■定年シニアが山梨県上野原市の山林で林業ライフ。取り組んでいるのは、「上野原市林業研究会」で、市の林業セミナーの参加者らが2018年11月に設立。メンバーらは北都留森林組合(同市)が間伐した後に林内に残った放置材を軽トラックで運びだし、同県大月市にある大月バイオマス発電所に持ち込んでいる。2019年3月の活動開始からこれまでにスギやヒノキ計約32tを搬出し、発電所に5,000円/tで買い取ってもらっている。今年から運搬に加え伐採も手掛けることになり、同市四万津地区のナラやクヌギなどの雑木林を3年で伐採する計画。組合が全量を買取り、薪を使う別荘やキャンプ場などに販売する【毎日新聞：2020/02/11】

<https://mainichi.jp/articles/20200211/k00/00m/040/052000c>

■福島県三島町、地元の森林を活用した町地域循環共生圏推進協議会を1月末に発足。町と建設、観光などの民間企業、金融機関、自然エネルギー関係団体などの14団体が協議会に参加。アドバイザーとして県会津農林事務所、国立環境研究所福島支部が加わる。地域内で間伐材を燃料チップ化し、木質バイオマス発電のエネルギーを公共施設に供給する。森林活用、資源供給、再エネ利活用の三委員会を設け、事務局の町が2020年度に詳細計画を作り、3~4年後には実用化にこぎ着けたいと構想を描く。事業費のかかるチップ化施設や木質バイオマス発電施設は、町が大口の出資をして運営の中心となる見込み【福島

民報：2020/02/12】

<https://www.minpo.jp/news/moredetail/2020021272632>

■(株)長大(東京)が木質バイオマスガス化発電を核とする地域創生のモデルケースとして取り組む、山梨県南部町の木質バイオマス発電所が2月13日に起工。同事業は、同社子会社の(株)南部町バイオマスエナジー(東京)と南部町が2019年9月に締結した「公民連携木質バイオマスガス化発電事業」にかかる協定書に基づいて行う。発電設備にはマレーシアのプラントメーカー、リニューアブルプラス社が製造する分散型の熱分解方式によるバイオマスガス化発電プラント「blue FLAME(発電能力800kW)」を国内初導入。電気はFITを利用し東京電力パワーグリッド(株)(東京)に供給。さらに(株)パルスシステム電力(東京)が同社から再生可能エネルギーを買取る。これらの売電収入は年間最大約2億3,000万円になる見込み。事業期間は20年間。発電工程で得られる排熱は隣接するスポーツセンター内の温水プールの保温用熱源や間伐材由来の木質チップ乾燥用熱源として利活用するほか、災害時に防災拠点となるスポーツセンターの非常用電源とする計画。発電所建設のEPC(設計・調達・建設)事業者は(株)東京エネシス(東京)。7,000t/年の木質バイオマス資源調達は南部グリーンエナジーが担う。11月末の完成、2021年1月の本格的な商業運転開始を目指す【建設通信新聞：2020/02/14】

<https://www.kensetsunews.com/archives/419996>

※OSR：バイオマス・再可エネ等の専門情報誌「オンサイト・レポート」の略

2. ペレット関連情報

■(株)栗本鐵工所(大阪)、1月に出した同社の技術論文集「クリモト技報」で、木質ペレットとPKSの木質バイオマス混合燃料のサイロ内挙動・払出機性能に関するレポートを掲載。木質ペレットとPKSは物性が異なるため、従来は燃料毎に貯留場所・受入設備があり、別ラインの搬送設備が必要となる。しかし各燃料を混合して受入することができれば貯留・搬送設備の簡略化が可能となり、敷地面積の削減、事業コストの大幅低減につながるとして、同社で設計中の混合燃料貯留搬送設備を使

った実験を実施。使用燃料について(1)ペレット100%、(2)PKS100%、(3)ペレット50%+PKS50%(層状分布)、(4)ペレット50%+PKS50%(混在分布)の四種類を用意して実験。その結果「設計中のサイロの形状ならびに払出機の形式の採用において問題なく安定した稼働が可能」で、「PKSの水分が木質ペレットに移行することで、ブリッジや閉塞を引起こし、排出不良等が生じることが懸念されたが、混合することで逆に燃料物性の均一化が図られることが確認できた」としている。詳細な

内容については、以下のサイトを参照【OSR No.404 : 2020/01/22、(株)栗本鐵工所：2020/1月】

<http://www.kurimoto.co.jp/technology/cat01/giho.php>

■電源開発（Jパワー）の渡部肇史社長、産経新聞のインタビューに応じ、石炭火力発電でのバイオマス燃料混焼を本格化させる方針を明らかに（1月27日）。今年稼働させる竹原火力発電所新1号機（広島県竹原市）で、燃料の1割を国内間伐材による木質ペレットとするほか、既存の発電所でもバイオマス混焼を増やす。既に一部の発電所では下水汚泥をバイオマス燃料として使用。近く住友林業（株）（東京）と共同出資で2018年7月に設立した木質ペレット製造会社「SJウッドペレット（株）（東京）」を稼働させ、バイオマス燃料の供給体制を整備する（2018年6月19日のニュースリリース時点では、SJウッドペレットは2021年に事業化の予定）。渡部氏は、竹原新1号機を含む今後稼働する石炭火力発電で最新鋭技術である超々臨界圧ボイラを採用するほか、高効率の石炭ガス化複合発電やCO₂の分離・回収などの技術革新によって「石炭火力を使用しながら低CO₂、脱CO₂に取り組む」戦略を強調【産経新聞：2020/01/27】

<https://www.sankei.com/economy/news/200127/ecn200127014-n1.html>

■日本郵船グループのNYKバルク・プロジェクト（NBP）が、カナダのバイオマス燃料大手ピナクル・リニューアブル・エナジーと木質ペレットの輸送契約を締結。NBPは今回の契約に四国ドックで建造した4万重量t級のハンディサイズバルカー「NEW PINNACLE」を投入。カナダから日本のバイオマス発電所に木質ペレットを輸送する【日本海事新聞：2020/01/31、Pinnacle Renewable Energy：2020/01/16】

<https://www.jmd.co.jp/article.php?no=253906>

<https://www.pinnaclepellet.com/cision/?nrid=122532>

■シン・エナジー（株）（兵庫）、関連会社のくしま木質バイオマス（株）（宮崎）が運営する大生黒潮発電所（宮崎県串間市）が2月3日に運転を再開したと発表。同発電所は2019年10月16日にペレット製造工程におけるStela（ステラ）社製温水式おが粉乾燥設備内より発火。排気ファン及び乾燥設備内部後方に延焼したのち、同日午後2時頃鎮火。設備の損傷した部品の復旧・対策工事並びに試運転を2020年1月から開始し、ガ

ス化発電機10基およびバイナリー発電機1基は順次運転を再開。2月7日には全てが稼働した。2月8日現在、全発電機は安定稼働しており、送電端出力は1674kWになっているとのこと【シン・エナジー（株）：2020/02/06、2020/02/10】

<https://www.symenergy.co.jp/news/20200206-4633.html>

<https://www.symenergy.co.jp/news/20200210-4658.html>

■（株）シーズ（福島）が福島県再生可能エネルギー関連補助事業の中で進めてきたペレット製造施設が完成。同事業は木質ペレット製造工程に木質バイオマスガス化熱電併給設備（CHP）を導入し、CHPからの排出熱を乾燥用に、電力を所内に活用することで低CO₂低コスト型木質バイオマス燃料製造装置の実証研究を行うというもの。東日本テクノ（株）（北海道）が、おが粉受入からおが粉乾燥設備・木質ペレット成型設備を完成させるまでを担当。成型機はCPM製ペレットミルを採用。今後はバイオマス発電装置との連携を含めた調整に入り、システムの試運転・検証、福島大学によるエネルギー環境評価、コンサルタントによる報告書取りまとめが行われる予定。事業は、平成30年度～令和2年度まで実施予定【東日本テクノ（株）：2020/02/10、さいえね（福島県補助事業集）：令和元年度】

<http://higashi-nihon-techno.jp/publics/index/125/>

https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/life/391795_1183260_misc.pdf

■米ゼネラル・エレクトリック（GE）、2023年7月に運開予定の神栖バイオマス発電所（茨城県神栖市）に、再生可能エネルギー向けの発電パッケージを提供すると発表（2月4日）。GEグループのGEスチームパワーが、同発電所の設計・調達・建設（EPC）を受注した日立造船（株）（大阪）に、蒸気タービン発電機・ボイラ・環境装置を統合した発電パッケージを提供する。具体的には、GE製の低NOx循環流動床（CFB）ボイラ、高効率煤塵除去ファブリックフィルター、再熱式蒸気タービン、発電機を設置する計画。同発電所は、2019年9月に中部電力（株）（愛知）や三菱UFJリース（株）（東京）が出資する「神栖バイオマス発電所合同会社」が設立され、2020年12月の着工に向けて準備を進めている。発電出力は50MW、燃料にはPKSや木質ペレットからなるバイオマス燃料を100%使用する予定【環境ビジネスオンライン：2020/02/12、[GE:2020/02/04](https://www.kankyo-business.jp/news/024181.php)】

<https://www.kankyo-business.jp/news/024181.php>

<https://www.genewsroom.com/press-releases/GE-supplying->

[steam-technology-for-high-efficiency-biomass-power-plant-in-Japan/jp](http://www.fnn.jp/posts/7899SAY/202002171204_SAY_SAY&ct=ga)

■エイブルエナジー合同会社（福島）が福島県いわき市に建設中の「福島いわきバイオマス発電所」向け木質ペレット燃料全量（44万t/年）を米国東海岸から輸入。いわき市の小名浜港周辺に保管用の倉庫を整備。年間発電量は一般家庭約23万世帯にあたる約7億7千万kWh。同社によると、木質ペレットのみを使用した発電所としては国内最大規模という。合同会社は発電所の保守管理会社、(株)エイブル（福島）と関西電力（株）（大阪）、(株)九電工（福岡）が出資して15年2月に設立。発電所は、2022年4月の運開を目指す【日刊工業新聞：2020/02/14、日本経済新聞：2019/09/30】
<https://www.nikkan.co.jp/spaces/view/0051740&ct=ga>
<https://www.nikkei.com/article/DGXMZO50397150Q9A930C1L01000/>

■酒田港（山形）、2019年の貨物取扱量が微増。品目別ではバイオマス燃料を含む「リサイクル貨物」が43万tで前年比約

15%上昇。これは2018年8月に酒田港周辺で稼働を開始した酒田バイオマス発電所で使用する燃料の輸入が大きく増えたため。酒田バイオマス発電所はサミット酒田パワー（株）（山形）が運営。東北エリアでは最大級の出力50MWで、燃料は国内チップ、輸入ペレット、輸入PKS。酒田港は2003年に廃棄物や資源化ごみの物流拠点として国のリサイクルポートに指定されている。リサイクル貨物の機能に係る日本海側拠点港にも選定されており、今後さらなる貨物の増加が期待される【さくらんぼテレビ：2020/02/20、国交省東北地方整備局酒田港湾事務所、サミット酒田パワー（株）】

https://www.fnn.jp/posts/7899SAY/202002171204_SAY_SAY&ct=ga
http://www.pa.thr.mlit.go.jp/sakata/introduction/introduction09_2.html
<http://www.summit-sakata-power.co.jp/>

※OSR：バイオマス・再可エネ等の専門情報誌「オンサイト・レポート」の略

3. イベント情報（国内）

※ 新型コロナウイルスの影響で、多くのイベント、展示会が中止や延期を発表されています。開催の有無については、各イベントのウェブサイト等をご確認ください。

◎：木質ペレット燃料、ストーブ、ボイラの関連イベント

■産経新聞社「第2回森林ビジネスイノベーション・フォーラム～持続可能なビジネスモデルの構築～」
2020年3月2日（月）
大手町サンケイプラザ4階ホール（東京都千代田区）
<https://id.sankei.jp/v/?VID=user.event.entry&OP=detail&ID=1158&ga=2.187964271.691331911.1582781462-1652533009.1582257771>

■（特非）グリーンエネルギー青森「持続可能な低炭素社会の実現に向けた交流の場『グリーン交流会 in あおもり』」
2020年3月2日（月）
青森駅前アウガ（青森市男女参画プラザ）5階研修室（青森県

青森市）

<http://www.ge-aomori.or.jp/>

■（公財）地球環境戦略研究機関（IGES）「平成30年度補正予算・林野庁委託事業『クリーンウッド』利用推進事業のうち追加措置の先進事例収集事業調査結果報告会」

2020年3月4日（水）

日比谷図書文化館日比谷コンベンションホール（東京都千代田区）

<https://www.iges.or.jp/jp/events/20200304>

■環人8プラス（カンジンエイトプラス）、他「持続可能なエネルギーとまちづくりセミナー2 気候危機いま私たちのなすべきことは」

2020年3月8日（日）

フューチャー・ラボ（滋賀県守山市）

<https://www.shigagpn.gr.jp/img/news/88.pdf>

◎固体バイオ燃料国際規格化研究会「固体バイオ燃料国際規格化研究会セミナー ～ISO 固体バイオ燃料規格策定の最新状況～」

2020年3月9日（月）

近畿大学東京センター（東京都中央区）

<https://solidbiofuelsforum.wixsite.com/meeting202003>

■NPO 法人バイオマス産業社会ネットワーク第138回研究会「自伐型林業の最新状況と持続可能な木質バイオマス利用（仮題）」

2020年3月10日（火）

地球環境パートナーシッププラザ（GEOC）（東京都渋谷区）

http://www.geoc.jp/rashinban/event_detail_37729.html

■FoE Japan、他「国際シンポジウム 3・11から9年 どう伝える？ 原発事故のこと～オリンピックで埋もれさせない、福島のリアル～」

【東京】2020年3月11日（水）

聖心女子大学ブリット記念ホール（東京都渋谷区）

【福島】2020年3月14日～15日

14日：チェンバおおまち3F多目的ホール、15日：福島県文化センター（両会場共、福島県福島市）

<http://www.foejapan.org/energy/fukushima/200311.html>

■（一社）日本木質バイオマスエネルギー協会「2019年度林野庁補助事業『災害被災木等活用実態調査支援事業』の成果報告会」

2020年3月13日（金）

ホテル熊本テルサ 会議室たい樹（3F）（熊本県熊本市）

<https://www.jwba.or.jp/>

■「森林と市民を結ぶ全国の集い2020 in 東京」実行委員会「第24回 森林と市民を結ぶ全国の集い2020 in 東京 世界が取り組むSDGsを、私たちの森に活かす！～ともに学び、ともに歩む仲間をつくろう～」

2020年3月14日（土）～15日（日）

東京農業大学世田谷キャンパス（東京都世田谷区）

<https://www.moridukuri.jp/forumnews/20031415.html>

■NPO 法人農都会議 バイオマス WG/地域G3月勉強会「FITと熱利用政策の行方～FIT見直しで地域型バイオマス・熱活用はどうか？～」

2020年3月16日（月）

港区神明いきいきプラザ4階集会室A（東京都港区）

<https://blog.canpan.info/bioenergy/archive/300>

■日本木材学会「第70回 日本木材学会大会」

2020年3月16日（月）～18日（水）

鳥取大学共通教育棟・とりぎん文化会館（鳥取県鳥取市）

<http://www.jwrs.org/meeting/>

■（公社）大日本山林会シンポジウム『「脱・国産材産地」時代の林業・木材産業』

2020年3月17日（火）

三会堂ビル9階石垣記念ホール（東京都港区）

<http://www.sanrinkai.or.jp/news/symposium/>

■岩手・木質バイオマス研究会 第16回定例セミナー「2019年度花巻市および周辺地域内エコシステム構築成果報告」

2020年3月17日（火）

岩手県立大学アイーナキャンパス（アイーナ7階）（岩手県盛岡市）

<https://wbiate.jimdofree.com/%E3%82%A4%E3%83%99%E3%83%B3%E3%83%88%E6%83%85%E5%A0%B1/>

■（一社）アグリデザイン研究所「資源作物によるカーボンマイナスシンポジウム2020」

2020年3月18日（水）

ギンザシックス THE GRAND GINZA「MULTIPLE HALL」（東京都中央区）

<https://www.agri-design.or.jp/posts/7694000>

■滋賀県「しが地域エネルギーコンソーシアム・フォーラム『SDGs×エネルギー～再生可能エネルギーがもたらす地域社会の未来～』」

2020年3月19日（木）

ピアザ淡海大会議室（滋賀県大津市）

<https://www.pref.shiga.lg.jp/kensei/koho/e-shinbun/event/309792.html>

■NPO 法人グリーンズ キノマチ会議事務局「キノマチ大会議
まちと森のいかしあう関係性をつくるカンファレンス」
2020年3月26日(木)
東京ミッドタウンホールB(東京都港区)
<https://greenz.jp/event/kinomachi-daikaigi-2020/>

■(株)新社会システム総合研究所「米国のエネルギー産業
の最新動向と脱炭素化への流れ～エネルギー×デジタルトラ
ンスフォーメーション～」
2020年3月26日(木)
アーバンネット神田カンファレンス(東京都千代田区)
http://www.ssk21.co.jp/seminar/S_20145.html

■(一社)日本森林学会「第131回日本森林学会大会」
2020年3月27日(金)～30日(月)
名古屋大学東山キャンパス(愛知県名古屋市)
<https://www.forestry.jp/>
※公募セッションT1「木質バイオマスの小規模エネルギー利
用の現状と課題」
<https://www.forestry.jp/meeting/meeting131/organizedSession.html>

■気候ネットワークシンポジウム「炭鉱の町釧路から地球温
暖化を考える」
2020年3月28日(土)
釧路市生涯学習センター・まなぼつと幣舞 705/706(北海
道釧路市)
<https://www.kiconet.org/event/2020-03-28>

■2020年春季大会運営委員会「林業経済学会2020年春季大
会」
2020年3月30日(月)
名古屋大学東山キャンパス、全学教育棟本館S30(愛知県名
古屋市)
http://www.jfes.org/kenkyukai/JFES_2020_Spring/2020_spring.html

■(株)新社会システム総合研究所「最新の再エネ発電設備
に係る税制とFIT法改正対策スキームについて～全量売電低圧
太陽光発電のFIT適用除外対策等～」

2020年4月16日(木)
紀尾井フォーラム(東京都千代田区)
http://www.ssk21.co.jp/seminar/S_20166.html

■NPO 法人農都会議 バイオマス WG/農都交流・地域支援 G
4月勉強会「スマート林業が拓く未来～林業のICT化で変わる
サプライチェーン～」
2020年4月20日(月)
港区神明いきいきプラザ4階集会室A(東京都港区)
<https://blog.canpan.info/bioenergy/archive/302>

■ISAP2020日本開催組織委員会「国際応用藻類学会第7回大
会(ISAP2020)」
2020年4月20日(月)～24日(金)
幕張メッセ(千葉県千葉市)
[http://v4.eir-
parts.net/v4Contents/View.aspx?cat=tdnet&sid=1627880](http://v4.eir-parts.net/v4Contents/View.aspx?cat=tdnet&sid=1627880)

■日報ビジネス(株)「2020 NEW 環境展」「2020地球温暖化
防止展」
2020年4月22日(水)～24日(金)
インテックス大阪(大阪府)
<http://www2.nippo.co.jp/stop-ondanka18/>

■林野庁「第30回森と花の祭典ー『みどりの感謝祭』式典併
催行事『みどりとふれあうフェスティバル』」
2020年5月9日(土)～10日(日)
日比谷公園にれのき広場等(東京都千代田区)
[https://www.rinya.maff.go.jp/j/press/sanson_ryokka/200203.h
tml](https://www.rinya.maff.go.jp/j/press/sanson_ryokka/200203.html)

◎CMT「11th Biomass Pellets Trade & Power」
2020年5月11日(月)～14日(木)
東京マリオットホテル(東京都品川区)
<https://www.cmtevents.com/aboutevent.aspx?ev=200501&>

◎日本ペレットストーブ工業会「第2回JAPAN
PELLETSTOVE SHOW in Nagoya」
2020年5月12日(火)
ららぽーと名古屋みなとアクルス屋外イベントスペース「デ

カゴン」(愛知県名古屋市)

◎日本ペレットストーブ工業会「総会／設置推奨基準講習会等」

2020年5月13日(水)

名古屋市内(愛知県名古屋市)

■(一社)日本エネルギー学会「第29回日本エネルギー学会大会」

2020年8月5日(水)～7日(金)※7日(金)はテクニカルツアー

富山国際会議場大手町フォーラム(富山県富山市)

<https://www.jie.or.jp/publics/index/557/>

◎リードエグジビションジャパン「スマートエネルギーWeek内バイオマス展」【関西展】

2020年9月9日(水)～11日(金)

インテックス大阪(大阪府大阪市)

<https://www.bm-expo.jp/ja-jp.html>

■(一社)林業機械化協会「2020 森林・林業・環境機械展示実演会」

2020年10月4日(日)～5日(月)

苫小牧東部地域(北海道苫小牧市)

<https://www.rinkikyo.or.jp/>

◎リードエグジビションジャパン「スマートエネルギーWeek内バイオマス展」【東京展】

2021年3月3日(水)～5日(金)

東京ビッグサイト(東京都江東区)

<https://www.bm-expo.jp/ja-jp.html>

■日報ビジネス(株)「2021 NEW 環境展」2021 地球温暖化防止展」

2021年5月

東京ビッグサイト(東京都江東区)

<https://www.nippo.co.jp/n-expo019/index.htm>

◎リードエグジビションジャパン「スマートエネルギーWeek内バイオマス展」【関西展】

2021年9月29日(水)～10月1日(金)

インテックス大阪(大阪府大阪市)

<https://www.bm-expo.jp/ja-jp.html>

◎リードエグジビションジャパン「スマートエネルギーWeek内バイオマス展」【東京展】

2022年3月2日(水)～4日(金)

東京ビッグサイト(東京都江東区)

<https://www.bm-expo.jp/ja-jp.html>

◎リードエグジビションジャパン「スマートエネルギーWeek内バイオマス展」【関西展】

2022年9月28日(水)～30日(金)

インテックス大阪(大阪府大阪市)

<https://www.bm-expo.jp/ja-jp.html>

4. イベント情報(海外)

◎European Pellet Conference 2020

2020年3月4日(水)～6日(金)

ヴェルス(オーストリア)

<http://www.wsed.at/en/world-sustainable-energy-days.html>

■Biomass Power ON 2020

2020年3月4日(水)～6日(金)

ストックホルム(スウェーデン)

<https://fortesmedia.com/biomass-poweron-2020,4,en,2,1,1.html>

◎The WORLD SUSTAINABLE ENERGY DAYS 2020

2020年3月4日(水)～6日(金)

ヴェルス(オーストリア)

<http://www.wsed.at/en/world-sustainable-energy-days.html>

■Argus Biomass Asia Conference

2020年3月4日(水)～6日(金)

シンガポール(シンガポール)

<https://www.giievent.jp/argu918101/>

■Gasification Summit 2020

2020年3月18日(水)～19日(木)

リヨン(フランス)

<https://www.wplgroup.com/aci/event/gasification/>

■World Bio Markets

2020年3月23日(月)～25日(水)

アムステルダム(オランダ)

https://www.worldbiomarkets.com/?utm_source=Biofuelsinternational&utm_medium=affiliate&utm_campaign=mp_WBM20_Biofuelsinternational_eventcalendar

■IEA Task 37 symposium: Drivers for Successful and Sustainable Biogas/RNG Projects: International Perspectives

2020年3月26日(木)

トロント(カナダ)

<http://task40.ieabioenergy.com/>

■2020 Value of Biogas East Conference

2020年3月26日(木)～27日(金)

トロント(カナダ)

<https://biogasassociation.ca/vob2020/page/vobeast2020>

■POWERGEN INDONESIA 2020 -The 5th Indonesia International Industrial Power Generation & Renewable Energy Exhibition 2020

2020年3月26日(木)～27日(金)

ジャカルタ(インドネシア)

<https://www.powergen-exhibition.net/event-fact-sheet-jakarta>

◎Biomass Brno

2020年3月31日(火)～4月4日(土)

ブルノ(チェコ共和国)

<https://www.bvv.cz/en/biomass/>

■Bioenergie FORST live 2020

2020年4月3日(土)～5日(月)

オッフエンブルク(ドイツ)

<https://www.forst-live.de/en/forst-live-en>

■ Energy Efficiency and Renewable Energy Exhibition & Conference

2020年4月7日(火)～9日(木)

ソフィア(ブルガリア)

<https://viaexpo.com/en/ee-re-exhibition>

■Argus Biomass Conference 2020

2020年4月20日(月)～22日(水)

ロンドン(UK)

<https://www.argusmedia.com/en/conferences-events-listing/biomass>

◎EUBCE 2020

2020年4月27日(月)～30日(木)

マルセイユ(フランス)

<http://www.eubce.com/conference/eubce-conference.html>

■10th European Algae Industry Summit

2020年4月29日(水)～30日(木)

レイキャビク(アイスランド)

<https://www.wplgroup.com/aci/event/european-algae-industry-summit/>

■IFAT 2020

2020年5月4日(月)～8日(金)

ミュンヘン(ドイツ)

<https://www.ifat.de/en/>

■POWERGEN INDIA

2020年5月5日(火)～7日(木)

ニューデリー(インド)

<https://www.powergen-india.com/>

■Nordic Baltic Bioenergy Conference

2020年5月6日(水)～7日(木)

ヴァリニユス(リトアニア)

<https://www.svebio.se/en/evenemang/nordic-baltic-bioenergy-conference/>

■7th Africa OIL PALM

2020年5月6日(水)～7日(木)

アクラ(ガーナ)

<https://www.cmtevents.com/aboutevent.aspx?ev=200517&>

◎ISO/TC 238 Meeting

2020年5月10日(日)～15日(金)

バンクーバー(カナダ)

<https://www.iso.org/committee/554401.html>

■Biogas Development Forum

2020年5月13日(水)

アムステルダム(オランダ)

https://informaconnect.com/biogas-development-forum/?vip_code=FKA2758BIOINS&utm_source=Bioenergy%20Insight%20medium=referral&utm_campaign=Bioenergy%20Insight%20Banner%20referral&utm_content=FKA2758BIOINS&tracker_id=FKA2758BIOINS

■Biomass Trade Summit Europe 2020

2020年5月13日(水)～14日(木)

アムステルダム(オランダ)

<https://www.wplgroup.com/aci/event/biomass-trade/>

■ALL-ENERGY Exhibition and Conference 2020

2020年5月13日(水)～14日(木)

グラスゴー(UK)

<https://www.all-energy.co.uk/>

■RENEXPO Energy Waste & Water Western Balkans

2020年5月13日(水)～14日(木)

ベオグラード(セルビア)

<http://renexpo-belgrade.com/en/conference/conference-program/conference-program-2020/>

■Expobiogaz 2020

2020年6月3日(水)～4日(木)

リール(フランス)

<https://www.expo-biogaz.com/en/show/lille>

■International Fuel Ethanol Workshop & Expo

2020年6月15日(金)～17日(日)

ミネソタ州ミネアポリス(USA)

<http://www.fuelethanolworkshop.com/ema/DisplayPage.aspx?pageld=Home>

■Biodiesel Production Technology Summit

2020年6月15日(金)～17日(日)

ミネソタ州ミネアポリス(USA)

<http://www.biodieselttechnologysummit.com/ema/DisplayPage.aspx?pageld=Home>

■KWF Tagung 2020

2020年7月1日(水)～4日(土)

ヘッセン州シュヴァルツェンボルン(ドイツ)

<http://www.kwf-tagung.org/kwf-tagung.html>

■UK AD and World Biogas Expo 2020

2020年7月1日(水)～2日(木)

バーミンガム(UK)

<http://www.biogastradeshows.com/>

■World Biogas Summit

2020年7月1日(水)～2日(木)

バーミンガム(UK)

<http://world-biogas-summit.com/>

◎The 9th Asia-Pacific Biomass Energy Exhibition (APBE 2020)

2020年8月16日(日)～18日(火)

広州市(中国)

<https://pellets-wood.com/the-9th-asia-pacific-biomass-energy-exhibition-ap-o20933.html>

■Asia Solid Fuels 2020

2020年8月26日(水)～27日(木)

ハノイ(ベトナム)

<https://www.cmtevents.com/aboutevent.aspx?ev=200821&>

© 6th Biomass & BioEnergy Asia/Recycled Energy Asia
2020/WtE Asia 2020
2020年9月8日(火)～10日(木)
バンコク(タイ)

<https://www.cmtevents.com/aboutevent.aspx?ev=20020809&>

©Svebio Fuel Market Day 2020

2020年9月10日(木)

<https://www.svebio.se/en/evenemang/svebio-fuel-market-day/>

©Advanced Biofuels Conference 2020

2020年9月15日(火)～17日(木)

ストックホルム(スウェーデン)

<https://www.svebio.se/en/evenemang/advanced-biofuels-conference-2020/>

■RWM & Future Resource 2020

2020年9月16日(水)～17日(木)

バーミンガム(UK)

<https://www.rwmexhibition.com/>

■EFIB 2020

2020年10月5日(月)～6日(火)

フランクフルト(ドイツ)

<https://efibforum.com/>

■13th Biofuels International Conference & Expo

2020年10月6日(火)～7日(水)

ブリュッセル(ベルギー)

<https://www.biofuels->

[news.com/conference/biofuels/biofuels_index_2020.php](https://www.biofuels-news.com/conference/biofuels/biofuels_index_2020.php)

■International Biomass Congress & Expo

2020年10月6日(火)～7日(水)

ブリュッセル(ベルギー)

<https://www.bioenergy->

[news.com/conference/biomass/biomass_index_2020.php](https://www.bioenergy-news.com/conference/biomass/biomass_index_2020.php)

■International Biogas Congress & Expo

2020年10月6日(火)～7日(水)

ブリュッセル(ベルギー)

<https://www.bioenergy->

[news.com/conference/biomass/biomass_index_2020.php](https://www.bioenergy-news.com/conference/biomass/biomass_index_2020.php)

■POLLUTEC

2020年12月1日(火)～4日(金)

リヨン(フランス)

<https://www.pollutec.com/en/home/>

■Progress in Biogas V

2021年3月10日(水)～12日(金)

シュトゥットガルト(ドイツ)

<https://ibbk-biogas.com/schedule/progress-in-biogas/>

■Elmia Wood

2021年6月2日(水)～5日(土)

ヨンショーピン(スウェーデン)

<https://www.elmia.se/wood/>

5. 公募等情報(締切順)

■経産省資源エネルギー庁「令和2年度エネルギー需給構造高度化対策に関する調査等委託事業(エネルギー政策動向分析・調査支援事業)」に係る委託先の公募(企画競争)について

公募期間 2020年2月21日(金)～3月12日(木)

https://www.enecho.meti.go.jp/appli/public_offer/2002/200221a/

■(公社)国土緑化推進機構「令和2(2020)年度『緑の募金』公募事業の募集について」

募集期間 2020年2月1日(土)～3月15日(日)

<http://www.green.or.jp/bokin/volunteer/activity-support>

■兵庫県宍粟市「木質バイオマス燃料製造設備補助金」

受付期間 2019年4月1日(月)～2020年3月16日(月)

<https://www.city.shiso.lg.jp/kurashi/gomishinyokankyo/kankyori-saikuru/1515747829708.html>

■（公社）国土緑化推進機構「2020年度緑の募金助成」

応募期間 2020年2月1日（土）～3月15日（日）

<http://www.green.or.jp/bokin/volunteer/activity-support>

■（公財）国際緑化推進センター「2020年度 緑の募金国際緑化公募事業」

募集期間 2020年2月1日（土）～2020年3月15日（日）

https://jifpro.or.jp/public_offering/3512/

■林野庁「省エネ再エネ高度化投資促進税制」

適用期間 2018年4月1日～2020年3月31日

<https://www.jwba.or.jp/%E6%96%B0%E8%A6%8F%E3%83%9A%E3%83%BC%E3%82%B8->

[1/%E7%9C%81%E3%82%A8%E3%83%8D%E5%86%8D%E3%82%A8%E3%83%8D%E9%AB%98%E5%BA%A6%E5%8C%96%E4%BF%83%E9%80%B2%E7%A8%8E%E5%88%B6/](https://www.jwba.or.jp/%E3%83%8D%E5%86%8D%E3%82%A8%E3%83%8D%E9%AB%98%E5%BA%A6%E5%8C%96%E4%BF%83%E9%80%B2%E7%A8%8E%E5%88%B6/)

■広島県「令和2年度広島県省エネ活動促進補助金の公募のお知らせ」

受付期間 2020年4月17日（金）

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/eco/2katudohojokin.html?fsi=rKqu3FXG>

■京都府「自立型再生可能エネルギー導入等計画の認定及び導入支援制度」

計画認定申請期間 2015年10月1日（木）～2021年3月31日（水）

<http://www.pref.kyoto.jp/energy/documents/ninteiseidogaiyou.pdf>

■東京都「東京都区市町村との連携による地域環境力活性化事業」

事業期間 2014年度～2023年度

http://www.kankyo.metro.tokyo.jp/policy_others/municipal_support/current.html

■高知県「高知県木質資源利用促進事業費補助金」

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/030501/2019022200068.html>

■高知県「再生可能エネルギー利活用事業費補助金」

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/610301/2015060100117.html>

■高知県香南市「香南市燃料タンク対策事業費補助金」

http://www.city.kochi-konan.lg.jp/reiki_int/reiki_honbun/r254RG00001291.html

■高知県仁淀川町「仁淀川町再生可能エネルギー利活用事業費補助金」

http://www.town.niyodogawa.lg.jp/reiki/reiki_honbun/r191RG0000129.html#e000000030

■栃木県「栃木県環境保全資金（省エネ設備等の導入）」

<http://www.pref.tochigi.lg.jp/d02/eco/kankyuu/ondanka/syoutene-setubi-yuusi.html>

※融資制度

■徳島県「自然エネルギー立県とくしま推進資金貸付制度」

<https://www.pref.tokushima.lg.jp/jigyoshanokata/kurashi/shizen/5007685/>

※融資制度

■奈良県「新エネルギー等対策資金」

<http://www.pref.nara.jp/23346.htm>

※融資制度

■（公財）日本環境協会「2019年度（平成31年度）環境配慮型融資促進利子補給事業」

https://www.jeas.or.jp/activ/prom_23_00.html

※融資制度

■横浜市「よこはまプラス資金（環境・エネルギー対策）」

<https://www.city.yokohama.lg.jp/business/bunyabetsu/kankyoo-koen-gesui/plus/taisyou.html>

※融資制度

■千葉県「環境保全資金（制度全般事業認定）」

<https://www.pref.chiba.lg.jp/shigen/chikyukankyou/ne/shien-jigyousha.html>

■千葉縣市原市「市原市企業立地促進条例」

<http://www.city.ichihara.chiba.jp/kanko/0205sangyou/kigyourittjgaido.html>

■千葉県南房総市「南房総市施設園芸用木質バイオマス暖房機設置費等補助金」

<http://www.city.minamiboso.chiba.jp/0000007149.html>